

「主体的・対話的で深い学び」を通じた学力向上

ーふくしまの「授業スタンダード」を基盤とした授業改善ー

郡山市立郡山第三中学校 教諭 星 克洋

1 研究の趣旨

本校では、「強く正しい生徒」「志を立て根気強い生徒」「よく考え真剣に学習する生徒」をめざす生徒像として掲げ、教育活動が行われている。全国学力・学習状況調査の質問に対する結果から本校生徒の課題としては次のものが挙げられる。

- (1) 授業中分からなかったことを質問する生徒が少ない。
- (2) 基礎・基本の定着、積極的なコミュニケーション能力の育成、課題解決に向け根気強く取り組む必要がある。

そこで、ふくしまの「授業スタンダード」を基盤として、教師の授業コーディネート力を伸ばし、タブレット端末の効果的な活用など生徒の話合いや発表、表現する場面を工夫することにした。新学習指導要領が完全実施となり、「主体的に問いをたてて、他者と協働しながら解決する力」の育成が必要とされている。次の仮説のもと研究を進め、生徒が主体的・対話的で深い学びを通して学力向上を図るために教師一人一人が授業を見直す機会にしたいと考え、本テーマを設定した。

自らの思いを伝える場面を工夫し、授業改善を進めていけば、生徒が主体的に学習に取り組み、学力の向上につながるであろう。

2 研究の概要

- (1) ふくしまの「授業スタンダード」をもとにして、授業の目標の明確化や生徒の主体性を引き出す教材の工夫、問題解決的な学習過程の工夫に重点を置き研究を進める。また、次の視点を1つ以上もって授業を展開する。
 - ① 計画・見通し（学習課題・生活経験との関連）
 - ② 個の追究・解決（個に応じた学習支援・学習の個別化・指導の個性化）
 - ③ ペア・グループなど話合い活動（思いや考えを広げ深める）
 - ④ 多様な見方・考え方（自分の意見・考えを見つめ直す）
 - ⑤ ICT活用（タブレット端末を活用したデータの分析や情報の共有等）
- (2) 年度初めの現職全体会でSWOT分析により生徒の現状を確認した後、教科部会で教科を通して目指す生徒像を決め、そこに迫るための戦略を話し合う授業改善マネジメントを実施する。
- (3) 子どもの変容をみるために学級力アンケートを年2回、教師の変容をみるためにふくしまの「授業スタンダード」のチェックシートを年3回それぞれ実施する。

3 成果と今後の課題

- (1) 研究の成果
 - 教師一人一人が自身の授業改善を図るとともに、これからの授業のあり方について学ぶ機会になった。
 - タブレット端末をツールとして活用して「主体的・対話的で深い学び」に迫ることができた。
 - ふくしまの「授業スタンダード」の展開部分を意識して授業を進めたことで、子どもたちの授業中の発言が増え、説明する力も伸びていると実感している。
- (2) 今後の課題
 - ICTを「使ってみる」から「ねらいをもって活用する」へとレベルアップを図る。
 - 「個別最適な学び」と「協働的な学び」実現のための授業改善を図る。令和4年度は、副主題を「効果的なICT活用を基盤とした授業改善」として研究を進めている。